

株式会社 オグロ

DX宣言書

2026年1月8日
株式会社 オグロ
代表取締役 前澤 竜一

□ 経営理念

強さと柔軟性を持ち合わせ、
自由な思考で躍動し出来ない事をなくしたい

スペックよりも意思を
技術力で競い、ブランドの優位性を描くのではなく
「意思」「想い」を描きブランドを形成していく

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 生産管理システム導入を起点に、業務・情報・技術をデジタルで繋ぎ、経験や勘に加えて、データに基づき判断・改善できるものづくり体制へ転換します
- ◆ DXを通じて生産性を高め、現場の負担を軽減することで、働きやすく働き続けられる職場環境を実現します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2026年6月)

戦略 「生産管理DXの基盤構築と段階的導入の準備」

- 施策
- ・ 生産管理システム導入に向けて、現状業務(見積～受注～出荷)の流れを可視化
 - ・ 生産管理システムを現場に無理なく定着させるため、案件単位での段階的導入方針を定め、対象案件で試行運用を実施
 - ・ システムへの入力負荷を最小化するため、現場での入力ルール・役割・タイミングを事前に定義
 - ・ DX推進への理解とシステム運用定着を図るため、全社員を対象に生産管理システム導入の目的・メリット等について説明会を実施

➤ フェーズ2(2026年7月 ～ 2027年4月)

戦略 「生産管理システムの本格運用と業務の見える化」

- 施策
- ・ 試行案件で確立した運用ルールを全社へ展開するため、案件単位で生産管理システムの導入範囲を順次拡大
 - ・ 納期遵守と生産負荷の平準化に向けて、工程別・設備別の進捗・負荷をリアルタイムに可視化し、生産計画や工程調整における迅速な意思決定を実現
 - ・ 正確な生産管理と在庫の最適化に向けて、顧客情報・在庫数・製造工程・売上・仕入・請求の基本マスタデータを整備し、情報の一元管理を確立
 - ・ 生産管理システムを現場に定着させるため、運用上の気づきや課題を定期的に振り返り、改善内容を全社で共有・反映する仕組みを構築

➤ フェーズ3(2027年5月 ～ 2028年12月)

戦略 「データドリブン経営への進化」

- 施策
- ・ 見積精度と利益率向上に向けて、蓄積したデータを基に標準工数を再定義し、見積プロセスを最適化
 - ・ 生産性向上と設備投資判断の高度化に向けて、段取り・進捗・設備稼働率に関するデータを分析・活用
 - ・ 品質管理強化に向けて、不良・手戻りデータを分析し、予防策の立案と再発防止の仕組みを構築
 - ・ 属人化の解消と人材育成に向けて、加工条件・ノウハウ・判断基準をデジタル化し、技能継承を仕組み化
 - ・ 生産・品質・図面等の各種データをリアルタイムに連携・活用するため、データ分析基盤の整備とシステム間の連携を推進

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ マスタデータ登録 : 完了(～2026年9月)
- ・ 紙の使用量削減率 : 2024年度比 20%(～2028年12月)
- ・ 残業時間削減率 : 2024年度比 50%(～2028年12月)